

事業名 KUMAGAI STAR PROJECT (通称:クマスタ)

■事業の目的 (300 字程度)

2014年、13年振りにミャンマー営業事務所を開設した事を機に考案した事業であり、ミャンマーに根付いて事業活動を行いたいと考え、クマガイスタープロジェクト(以下、クマスタ)を4つの目的を持ち開始した。

- ①ゼネコンならではのグローバルな社会貢献活動への参画を通じ、企業イメージの向上を図る。
- ②クマスタを通じ社員が地域貢献意識を共有し、自社への誇りを持つ事で、組織営業力の強化を図る。
- ③1現場1クマスタを合言葉に継続的な社会貢献を目指す。
- ④民間企業である当社が、ミャンマーで長年にわたり学校建設活動を行うNPO法人ブリッジエーシアジャパン(以下、BAJ)と協働する事で、地域に根差し、子供たちの将来の可能性の芽を広げ、地域に明るい未来をもたらす。

■事業の概要 (300 字程度)

当社のミャンマーの現場周辺地域で、教室が足りないために上の学年に上がれず、中学課程を終えることが出来ない子供たちがいる学校にBAJと協働して教室を建設し、学校環境を整備する事業である。

現在までの実績は、ミャンマー営業事務所再開後初受注である日本政府の無償援助工事「タウンゲー教員養成大学工事」の周辺地域にあるティライン小中学校の校舎を第一弾として建設(2016.05竣工)。第二弾は、ヤンゴン近郊にある当社施工中の現場に近いタンリン地区で、テピュチャウン小中学校を建設し、本年3月に竣工した。現在、第三弾に向けて調査中である。

■社会的課題の現状アプローチ (図表可)

※解決が必要な社会的課題とは、どのようなものですか。

※この課題を解決するために、本事業ではどのような着眼点でアプローチしようとしていますか。

【解決が必要な社会的課題】①学校に教室が足りないために上の学年に上がれず、日本でいう中学課程を終えられない多くの子供たちがいる。②手に職のない若者も多く雇用機会も少ない。

【課題解決のためのアプローチ】当社がミャンマーで受注する度に、その現場周辺地域でクマスタを行う事を目指しており、本業での受注がミャンマーの社会課題解決につながる取り組みとなる。

- ①ミャンマー教育省から「中学課程卒業の子供たちを確実に増やすために、あと2~3教室あれば完全な小中学校となる学校に教室を建設する事が大きな効果がある」とのアドバイスと共に候補校リストを頂き、当社現場周辺地域の子供たちが義務教育を終えられる環境を整える事に焦点を当てている。
- ②BAJと協働する事で、当社現場周辺地域の手に職のない若者に、BAJ熟練工からon the job training(OJT)で技術取得する機会を提供し、雇用創出も行っている。

■具体の事業内容 (図表可)

※上記の課題を解決するという観点から、事業の内容をご説明ください

クマスタは、ミャンマーでは初めての仕組みであると在ミャンマー日本大使館から評されている。通常は、NPOに寄附金を納め全てお任せするが多いが、クマスタでは、NPOが行う地域住民や教育省へのヒアリング、学校の選定、建設手続きを当社が行い、地域に溶け込んだ活動を実施している。建設はBAJの熟練工が地域住民と協力して実施し、地域の雇用を創出。BAJの熟練工は、当社の現場を視察し、技術交流も行っている。なお、多くのNPOからのアドバイスにより、学校側にも当事者意識を持ってもらうため、机や椅子等の備品は学校側が用意をするなど、熊谷組、BAJ、学校(周辺地域含む)、教育省が連携したプロジェクトとなっている。



■実施による効果

※この事業を実施することで、社会的課題はどのように解消される見込みですか。

①現時点で2校の学校環境整備が完了。第一弾では3教室建設し334名が、第二弾も3教室建設し497名が中学課程を終えられる環境を整備出来た。※住民のアンケートから「熊谷組だから教員養成大学だけでなくこの村に学校を作ってもらえた。日本のファンになった」②手に職のない若者は、BAJの熟練工からOJTで建設技術を習得し、将来職を得る機会を持つ事ができた。※作業員のアンケートから「OJTで賃金も得られ、将来につながるきっかけになり感謝する」③BAJ熟練工の当社現場視察により校舎現場作業員の士気向上と現場品質の向上（例：ピクトグラムによる安全看板導入）等の成果を生んだ。

また、クマスタを推進する上で、当社ミャンマー人スタッフの尽力は大きく、彼らにも日本の建設会社で働く誇りを持って貰えた事は望外の効果であった。

■事業の特徴・革新性

※既存の取組と比べてどのような点が特徴的ですか。

※従来の方法と比べて革新的と思われるのはどのような点ですか。

NPOを通じた学校建設は、寄附金を納入して全てお任せする取組みが一般的だが、クマスタは、発展途上国における社会貢献としての学校建設において既存の取組みと異なる7つの特徴を持つ。

①民間企業が自身の事業活動地域の周辺で行う。②自ら対象校を調査選定する。③建設中における地域住民や学校とのやり取りはNPOが主体的に行い、当社は施工現場周辺で行うからこそできる都度の訪問により、学校の要望確認やNPOとの密な打合せを行い、より良い学校環境整備を可能にしている。④当社施工現場とNPOの熟練工が技術交流を行う。⑤建設部隊を持つNPOであるBAJと協働する事で、当社現場周辺地域の手に職のない若者にOJTで働く機会を設ける。これは、民間企業である当社だけでは行えない地域貢献である。⑥全額寄附により一方的に学校環境整備を行うのではなく、地域住民も参加してもらう事により当プロジェクト関係者全員が当事者意識を持ち、将来に渡り学校を運営していく事に貢献している。⑦当社顧客も参加できる仕組みを構築した事で、お客様のCSR活動として気軽に参加して頂ける。

また、第二弾では美術の授業がないミャンマーの小学生に、壁面を描くイベントを開催して参加してもらった。クマスタが子供たちの可能性の創出にも貢献する取り組みとなるよう、当社現場周辺地域でハードとソフト両面から社会貢献を行って行きたい。



■今後の展望

※この事業に対する今後の展望をご記入下さい。

第二弾からは、当社顧客も建設費の寄附に参加できる仕組みを構築し、賛同頂いたお客様に参加して頂く事が出来た。当社が事業活動を行っている海外の現状を、クマスタを通じて当社顧客や外部に知って頂き、建設業や当社、社会課題に関心を持ってもらえればと考える。また、プロジェクトの継続は本業での受注を意味するため、本業での成果を上げ続けるモチベーションにもつながる。第二弾でも行ったが、「現地の建築事情を勘案しながら、日本の建設技術を取り入れた安全な校舎建設をNPOと共に構築する」など、技術的な取り組みも進めたい。将来的には、クマスタで建設した学校の卒業生が、日本に興味を持ってくれるようになること、また、土木建設業に興味を持ち、当社で将来一緒に働ければ望外の喜びだと考える。

この活動により、ミャンマーの子供たち、地域住民、NPO、熊谷組、そして熊谷組のお客様が、共通の喜び＝価値を創り上げ国際貢献の輪を広めて行ければと考えている。なおBAJは学校建設以外にも小規模インフラ事業（橋、道路等の整備）、生活用水供給事業（井戸建設、古井戸修繕）、BOOK&TOYライブラリー事業（小さな図書館の寄贈）等にも取組んでおりクマスタを継続的に行う上で、お互いに新しい取り組みの可能性を探り話し合いを行っている。

